



ある湖畔にまでおよんでいる。

ガスは元来単位体積当りの価格が安いので、あまり複雑な採取法をやつたのでは経済的にひきあわない。

この写真は信州諏訪湖畔の湖中の採ガス設備で、1口 20~30 立方Mのガスがとれる。湖畔との関連や、周囲の山々との関係を示すために、設備そのものは小さくなつてしまつたが、恐らく数あるガス田の中でも湖中採ガスは本邦唯一のも

所内 第2回 写真コンクール入選作 「湖中の採ガス設備」 燃料部 石油課 本島 公司

湖中の採ガス設備

日本各地にある水溶性の天然ガスは、北海道から南九州までにわたり、また低い沖積平野の下から、高原に

のであろう。

この設備は春の解氷期になると、氷と風のために破壊されてしまうので、毎年初夏には建設しなおされる。

兼子地質調査所長メキシコへ



第20回国際地質会議へ日本代表として出席するため、兼子所長は9月1日空路メキシコへ出発した。なお会議終了後アメリカの各地を視察、10月15日帰国の予定。

(羽田出発の兼子所長)

地質図幅(同説明書)

- 1: 50,000 「岩内」「幌泉」「虻田」「厚田」「鬼鹿」「襟裳岬」(以上北海道) 「阿仁合」(秋田) 「大迫」「土淵」(以上岩手) 「燧岳」(群馬・福島) 「男体山」(栃木・群馬) 「須坂」(長野・群馬) 「修善寺」(静岡) 「甲府」(山梨) 「宇部」「宇部東部」(山口) 「呼子」(佐賀) 「平戸」(長崎)
- 1: 75,000 「塩原」(栃木)
- 1: 200,000 「名古屋」「豊橋」

新刊紹介

工業技術院地質調査所 編
日本鉱産誌編集委員会 編

「日本鉱産誌 B1-b」 銅・鉛・亜鉛

B5版、本文260頁、鉱山別表395頁
色刷鉱山分布図 4枚

「主として金属原料となる鉱石」のうち既に刊行された「金・銀その他」・「鉄・鉄合金および軽金属」に続いて、「銅・鉛・亜鉛」篇が発行された。内容はわが国の最も重要な非鉄金属のうち銅・鉛・亜鉛資源について、沿革・現況・地質・鉱床・鉱石・需給状況などを詳しく記載し、また巻末には全国の銅・鉛・亜鉛の2260鉱床の概況を一覧できる表が付けてある。即ち、本書は学生・専門家・鉱業関係者・図書館・行政機関などにとつてきわめて有益であろう。

発行人 東京地学協会 (東京都千代田区二番町 12)
発売所 硯書房 (東京都世田谷区成城町 246)

—昭和30年度出版物—

地質調査所月報 Vol.6 No.4~Vol.7 No.2

地質調査所報告 No.165~No.167

No.165 北海道支所探鉱課: 北海道のチタン資源 (第1報)

No.166 本島 公司・伊田 一善・牧野 登喜男
三梨 昂: 静岡県庵原郡高部村付近天然ガス調査報告

No.167 村下 敏夫: 被圧面井戸における水位降下と揚水量との関係

特集 No.9 「ECALE 特集」中の誤植を次の通り訂正します。 2頁右欄5行目と下から4行目 誤正 投影 計画